

第5章 - 1

青少年の健全な育成

◆まちぐるみの活動～青少年育成市民会議～

まちの未来を創っていく青少年を健やかに、みんなで育てていこうと1969(昭和44)年に発足した守山市青少年育成市民会議は、学校や子ども会などの教育グループ、学区のまちづくり青少年部会などの地域グループ、社

会福祉協議会や老人クラブ連合会など青少年育成に協力している個人・団体グループから成る、約100人の評議員が中心となり、青少年育成大会の開催やあいさつ運動、安全安心パトロールなどを展開しています。

◆中学生広場～私の思い～

1998(平成10)年から始まった、中学生広場～私の思い～は、市内6中学校の代表生徒が、1300人を収容する市民ホール大ホールで日頃からの思いや意見を発表する大舞台です。

2018(平成30)年の広場では、世相を反映して命の大切さや自分の個性

などをテーマにした内容が目立ちました。

2018年からは、市独自の「もりやま夢プロジェクト」高校生英語スピーチコンテストも開催されるようになり、子どもたちがグローバルな視野と流暢な英語で発表しています。

◆地域で子どもを育てる～子ども会～

子ども会は1957(昭和32)年に勝部で生まれ、各地域に広がりました。連絡調整、相互協力、指導者育成のため、1980(昭和55)年に守山市子ども会連合会ができました。

2018(平成30)年の地域子ども会は73単位あり、小学生を中心に未就園児から高校生ままで約6000人が活動し、育成者・指導者など約2300人の

大人がその活動を応援しています。

子ども会では、同じ地域の子どもたちが遊びを通して仲間をつくり、さまざまな活動をしています。夏休みラジオ体操をはじめ、ほとんどの地域で行われている行事のほか、農作物収穫体験、伝統行事の手伝いなど地域の特色をいかした活動が行われています。

◆青年の社会参画へ～青年団と活動研究会～

守山市青年団は、1町5か村の合併で各青年団が集結した1957年を結成元年としています。1000人を超える団員が意気盛んに活動していましたが、生活基盤の変化などから徐々に廃れていきました。

そこで、市教育委員会は、2005(平成17)年に守山青年活動研究会を発足して、青年をはじめ青年団活動経験

者、有識者が青年活動を活発化するための議論や研究をすることにしました。発足の翌年、研究会若手の実践グループが第1回Paddy Volleyball(現Paddy Festival: 田んぼでバレーボール)、あわたんぼうのサンタがうちにやってきたあ～(子育て中の家庭に青年サンタが訪問)を企画・開催しました。後に実践グループは「もり



▲守山市青少年育成大会



▲中学生広場



▲シヨウガの収穫体験(子ども会行事)



▲川遊び(子ども会行事)

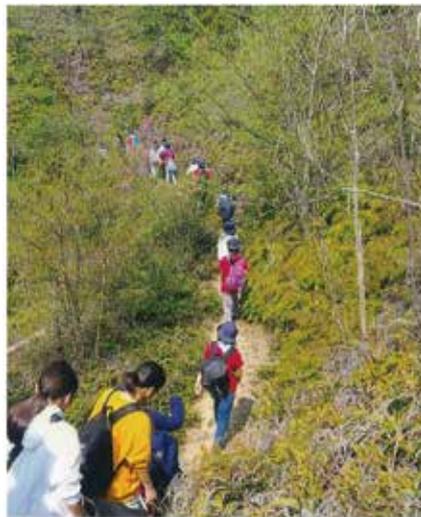


▲もりやま☆こんにちワーク

若力をかき活かし 希望にみちま



▲Paddy Festival(田んぼでバレーボール)



▲ガールスカウトの活動(ハイキング)



▲スポーツ少年団のつどい



▲全国大会出場の子どもたちを激励

やま青年団」を立ち上げ、行政や市民と協力してさまざまな活動をするようになりました。市内の子どもたちいろいろな仕事を知ってもらう「もりや

ま☆こんにちワーク」が恒例イベントに加わり、もりやま青年団の3大イベントとなっています。

◆心身の成長を促すスカウト運動

守山市では子どもたちが野外活動やボランティア活動を通して多くのことを学び、心と体を成長させるスカウト運動が盛んです。1979(昭和54)年に発足した日本ボーイスカウト滋賀連盟守山第1団、1974(昭和49)年に発足したガールスカウト日本連盟滋賀県第15団があります。

子どもたちはいろいろな学校、年齢の仲間と関わりながら自立心を養い、人との関わりや奉仕の心を学んでいます。もりやまいちや地球市民の森のつ

どいなどのイベントでは、もりやま青年団など他団体と協力して活動することもあります。近江守山ライオンズクラブ、守山ロータリークラブ、守山青年会議所が両団の育成支援をしています。

緑の少年団はグリーンスカウトともいわれ「緑に親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる」活動を通して健全な心身を育てようとするものです。1989(平成元)年に発足して、緑や自然を育てる活動などを行っています。

◆スポーツ少年団

スポーツ少年団は、1963(昭和38)年に守山町スポーツ少年団として発足し、1969(昭和44)年に守山町体育協会に加盟しました。子どもたちは、それぞれ競技種目で錬成するとともに、全団員が一堂に会するつどいやクリスマス会などで交流しています。

2018(平成30)年現在は、柔道・空手・スポーツ拳法・剣道・サッカー・

バレーボール・野球・ソフトボール・バスケットボールのチームが所属する、30団870人という大きな組織になりました。指導者は、スポーツを子どもの成長につなげるためにたえず勉強を続けています。

第5章 - 2

健やかな市民生活の実現へ

◆健康福祉・医療の充実ゾーン

市には「すこやか通り」の愛称を持つ道路があります。その名の通り周辺は市民の健康と健やかな暮らしを支援する、福祉保健センター(すこやかセンター)、済生会守山市民病院、県立総

合病院、県立小児保健医療センターなど健康福祉・医療の関連施設が集まっています。市民ホールや市民運動公園など心身を健やかに保つ文化・体育施設の集まるゾーンに隣接しています。

◆福祉保健センター(すこやかセンター)

福祉保健センター(すこやかセンター)は、医療・保健・福祉の中核施設として、1993(平成5)年に設置されました。

母子保健・健康づくり・発達支援・高齢者福祉・介護・障害者福祉など行政窓口が集約されている他、医師会・歯科医師会・薬剤師会、社会福祉協議会・老人クラブ連合会の事務局があり、

地域医療・福祉の拠点として、市民が安心して暮らし続けることができるまちづくりの推進に努めています。

核家族化が進み、働く女性が増えている社会背景の中、特に妊娠から子育て期まで切れ目ない支援を行う「守山版ネウボラ」に力を入れています。

◆健康もりやま21

市は、市民主体の健康づくりを推進するため、2003(平成15)年に健康づくり計画である健康もりやま21を策定しました。さらに2013(平成25)年には、子どもから高齢者まで生涯を通じた健康づくりを重視した、第2次健康もりやま21を策定しました。

その基本理念は「生涯を通じた健康づくりの『わ』で輝く人づくり、地域づくり」です。市民ひとりひとりが自分に合った健康づくりを主体的に進めながら、人と人が絆を強め、地域のふれあいと健康づくりの「わ」が広がっていくことを目標にしています。

◆健康づくりは食卓から

市が主催するすくすく健康相談や赤ちゃんサロンなどでは、子どもの時から健康意識を持ち規則正しい生活を身につけることで、未来に向けて健やかに過ごしてほしいと考えています。

健康づくりの基本となるのは毎日の食事です。家族や友人と食卓を囲み、規則正しい栄養バランスの取れた食事を楽しく摂取する習慣を身につけるため、教育委員会は栄養教諭と栄養職員5人を配置するとともに、市内の小中

学校で「早寝 早起き 朝ごはん」運動を展開しています。

また、家事や食事が億劫になりがちな高齢者にも、食事=楽しいという気持ちを持ってもらうため、健康推進員や福祉協力員、民生委員・児童委員などが、すこやかセンターや地域で会食とイベントを組み合わせ、すこやかサロンを開いています。



▲すこやかまちづくりフォーラム



▲守山版ネウボラ事業 赤ちゃんサロン

【語句】ネウボラとは？

フィンランド語で“ネウボ(neuvo) = アドバイス”、“ラ(la) = 場所”という意味です。フィンランドでは、妊娠から就学まで担当の保健師が家族の健康を支援しています。



▲親子料理教室



▲地域のイベントでラジオ体操

若い力をかき活かし、 希望にみちたまち



▲家族そろってよい歯のコンクール



▲学校ごとに給食を調理



▲楽しい給食の時間(小学校)



▲守山健康のび体操

◆楽しい運動でのびのび

市には自然豊かな都市公園があり、健康づくりに欠かせない適度な運動やスポーツをできる環境が整っています。

夏休みのラジオ体操に大人や高齢者も参加して世代交流をしたり、小学校グラウンドを拠点とした地域スポーツクラブの活動、学区単位で歩こう会を

主催するなど、地域や住民が主体となって運動と仲間づくりを楽しんでいます。

介護予防として取り組んでいる守山百歳体操や守山健康のび体操は、自治会館等でご近所や仲間同士で実施するグループが増え、地域に広がっています。

◆すべての世代が「若い力」を発揮できるまち

高齢者がいつまでも生き生きと活躍できるよう、市はシルバー人材センター、老人クラブ、市社会福祉協議会などの関係機関と連携しながら、趣味を通じた仲間づくりや居場所づくり、ボランティア活動や就労の場の創出など、支え合いの地域づくりをめざしています。

塾や習い事、勉強と忙しく、親も仕事で忙しい現代の子どもたちを支える

ために、市民グループや自治会などによる子ども食堂の運営が活発に行われています。中にはアレルギーのある子どもを対象に医療専門家が主催する子ども食堂もあります。

このように、健やかな市民生活は年齢に関わらず、行政や地域の人たちが支え合あって実現しています。

◆障害があっても健やかに

2003(平成15)年に行政が利用できるサービスを決定する措置制度から、障害のある人の希望に沿って認定する支援費制度へと移行しました。障害のある人は、市内約20か所の福祉施設

で心身ともに健康的なサービスとサポートを受けています。

市は湖南福祉圏域で連携し、支援体制の充実をはかっています。障害のある人が地域の中で、自立した生活を送

り、能力を発揮し、すべての人が障害の有無によって分け隔てなく支え合う共生社会の実現をめざしています。

第5章 - 3

市民スポーツの広まり

◆びわこ国体（56国体）を開催

1981(昭和56)年に第36回国民体育大会(びわこ国体)秋季大会が、「水と緑にあふれる若さ」をスローガンにして開催されました。市では、バレーボール(成年男女・少年男子の部)が

市民体育館などで、軟式野球(少年の部)が市民球場などで熱戦が繰り広げられ、その中で、守山クラブが見事3位に入賞しました。



▲熱戦を繰り広げる56国体

◆市内を走った炬火リレー

びわこ国体(56国体)の開催にあたり、10月10日に炬火リレーが市内を通過しました。炬火は、歴史的に由緒ある地とされる伊吹山頂・油日神社・延暦寺・竹生島の4か所で採火され、陸上・湖上をリレーし、12日に滋賀県庁で一つの火にまとめ、13日に皇子山陸

上競技場(大津市)で行われた総合開会式でトーチに点火されたのです。

守山市には伊吹の火が、琵琶湖大橋と野洲川橋から入り分火され、市内7学区をリレーし、10日に再び市役所で合火し、翌日に草津市に引き継ぎました。



▲炬火をリレーするランナー

◆高校総体（54総体）を開催

びわこ国体(56国体)に先立ち1979(昭和54)年に滋賀県で全国高等学校総合体育大会(高校総体)が開催されました。市では、バレーボール(男子6人制)が市民体育館をメイン会場に行われました。全国から54校が出場

し、8月2日～6日の5日間にわたり熱戦が繰り広げられました。

開会式の前には、守山小学校器楽隊が歓迎の演奏を、守山高校吹奏楽部が開会式ファンファーレの演奏を行いました。



▲熱戦を繰り広げる54総体

◆スポーツ施設の建設・充実

1974(昭和49)年に決定した市民運動公園計画を受けて、翌年に市内最初の社会体育施設として農業者トレーニングセンターを建設しました。

市民の要望が高まるなかで、1977(昭和52)年に市民体育館とスポーツ広場、3年後には市民球場を整備しました。

市民運動公園では、1984(昭和59)

年にソフトボール場を整備し、2011(平成23)年に市民体育館を改修・増築、弓道場を併設し、多目的アリーナとして多様なスポーツを行うことができるようになりました。また、2014(平成26)年に市民球場を改装し、2017(平成29)年にテニスコート(人工芝)を整備しました。



▲完成当初の農業者トレーニングセンター

◆野洲川歴史公園サッカー場

2005(平成17)年に野洲川歴史公園

サッカー場(愛称・ビッグレイク)が



▲併設された弓道場



若い力をかき活かし、
希望にみちまわ

▲キッズサッカー(ビッグレイク)



▲第1回市民大運動会



▲スポーツフェスティバルもりやま



▲歩こう会

オープンしました。ビッグレイクは、日本サッカー協会および滋賀県の助成金・補助金を得て、人工芝2面、天然芝1面のサッカーコートを整備しまし

た。現在、滋賀県サッカー協会の事務所が置かれ、滋賀県サッカーの拠点施設となっています

◆活発になる市民のスポーツ活動

市民大運動会からスポーツカーニバル、スポーツフェスティバルへ

市制施行を記念して、1970(昭和45)年に市体育協会が中心となり、第1回市民大運動会を開催しました。約2000人が参加し、学区対抗でリレー・玉入れ・綱引きを競いました。市制施行5周年にあたり、名称をスポーツカーニバルと改めました。2018(平成30)年からは、スポーツカーニバルとびわこ国体(56国体)の翌年か

ら始まった市民スポーツ大会を合わせて、スポーツフェスティバルもりやまを開催するようになりました。ビーチボールやソフトボール、軟式野球の交流戦を行い、ゴールボールなど10種目以上の体験ラリーを設けたことから、多くの参加者でにぎわっています。

市民歩こう会

市民歩こう会は、参加者の健康を保ち、互いの親睦をはかることを目的に1974(昭和49)年に始まり、2019(令和元)年で通算170回を超えています。

市・県内各地をはじめ、時には京都府や奈良県などのコースを決め、日帰りを実施しています。現在歩く距離は10km程度で、参加者は毎回100人ほどです。

成人式祝賀駅伝大会

1959(昭和34)年から青年団と体育協会が成人式を祝し駅伝大会を行ってきましたが、市制施行を記念して、1971

(昭和46)年に第1回成人式祝賀記念市内1周駅伝大会を開催しました。第1回は、青年団の部に9、一般の部に8の計



▲第31回 ハーフマラソン大会

17チームが出場しました。午前10時に市役所前をスタートし、河西・中洲・速野・玉津・小津を経て、再び市役所にゴールするコースでした。7区間、全長21.5kmを走るコースで、第1回の結果は青年団の部は三宅、一般の部は守山高校陸上競技部が優勝しました。

第34回大会〔2004(平成16)年1月

12日開催]から、運動公園の周辺を走る周回コースに変更されました。

現在は、一般A(市内在住もしくは市内事業所・高等学校に所属)、一般B(Aと同条件で35歳以上で構成)、中学生、女子、小学生、小学生女子の6部門で実施されています。

ほたるのまち守山ハーフマラソン大会

市制施行30周年を機に2000(平成12)年にほたるのまち守山走ろう大会をステップアップさせ、ほたるのまち守山ハーフマラソン大会に名称を変更し、今日に至っています。その第31回大会は、30周年記念事業のメインイベントとして、ゲストランナーに高橋尚子さん(シドニーオリンピック女子マラソン優勝、国民栄誉賞を受賞)を迎えて開催し、大いに盛り上がりました。

その後も、有森裕子さんや富士加代子さんなどオリンピックや世界陸上に出場し活躍した選手を招待しています。

1998(平成10)年から、毎年12月初旬の日曜日に佐川急便陸上競技場(現SGホールディングスグループ健康保険組合守山陸上競技場)をスタート・ゴールにして、全国からおよそ1500人のランナーが集う大会として親しまれています。



▲第50回成人式祝賀駅伝



▲ホストタウン正式決定



▲ゴールボール

◆スポーツのビッグイベントに向けて

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、市が2016(平成28)年にトルコ共和国のホストタウンに登録されました。受け入れ種目は、ゴールボールと視覚障害者柔道です。その選手団が市内で事前合宿を行い、市民や子どもと交流することになります。両国の相互理解をはかり、スポーツを通じ

た共生社会の実現が期待されています。

2021(令和3)年にはワールドマスターズゲームズ関西が開催されます。市では、軟式野球、ソフトボール、パドルテニスが行われます。

2024(令和6)年に滋賀県で第79回国民スポーツ大会、第24回全国障害者スポーツ大会が開催されます。市では、国

民スポーツ大会でサッカー(少年男子)、バレーボール(少年女子)、軟式野球(成年男子)、ソフトボール(少年女子)が、全国障害者スポーツ大会でサッカー(知的障害)が行われます。